

スタンフォード大学での外邦図に関するシンポジウムの開催

2011年10月7日～9日、アメリカ合衆国カリフォルニア州スタンフォードのスタンフォード大学で Japanese Imperial Maps as Sources for East Asian History: A Symposium on the History and Future of the *Gaihōzu* (東アジアの歴史資料としての帝国日本作製地図:「外邦図」の歴史と将来をめぐるシンポジウム) と題するシンポジウムが開催された。

外邦図の研究や利用を、国際的に広げていく必要性は、当初より私たちの大きな課題であり、外邦図研究会には、これまで中国（大陸・台湾）や韓国、インドネシアの研究者に出席していただくほか、調査や研究発表で訪れたソウルや台北、ワシントンでも交流を重ねてきた。このシンポジウムについて、スタンフォード大学の Kären Wigen 教授から参加の打診をいただいた際には、外邦図に対する国際的関心をさらに拡大する重要な機会としてとらえつつ、積極的にこれに参加し、私たちの外邦図研究の成果を報告し、さらに外邦図デジタルアーカイブの現状と課題をお知らせすることとした。

シンポジウムでは、中央研究院（台北）の歴史地図図書館および GIS 研究室の機関長である 范毅軍博士や同人文社会科学研究中心・地理資訊科学研究専題中心の廖 汝銘氏のような旧知の方々に加え、新たに多くの外邦図に関心をもつ研究者と接することができた。この方たちの関心やアプローチの方法は、山本健太「スタンフォード大学で開催された外邦図に関する国際シンポジウムの報告」(4～10頁) に詳しく示されているので参照していただきたい。また、下記のようなサイトでも、このシンポジウムが紹介されている。

http://ceas.stanford.edu/events/event_detail.php?id=2425

http://www.jspsusa-sf.org/pdfs/newsletter_vol24.pdf



巻頭写真：10月7日夕方の基調講演風景

(日本学術振興会サンフランシスコ・オフィス、上田桃子副センター長提供)